

読書推進運動

公益社団法人
読書推進運動協議会
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル6階
TEL 03(5244)5270
FAX 03(5244)5271
発行人 佐々木 泰
編集人 片岡 伸子
定価60円
会員の購読料は
会費の中に含まれる

No.693

- ★「敬老の日読書のすすめ」書目決定 (2頁)
- ★「第79回 読書週間」開催について (3頁)



「敬老の日読書のすすめ」によせて

「ちいさな集まり」に魅せられて

株式会社文藝春秋
第二文藝部

かみやま みつき
神山末月

〈もともとの母 になる場所〉

最初の一人は午前中にやって来る。「ヤアヤア、どうも、どうもでした」そう言つて戸が開けば、あとにはあつという間だ。「チョット、チョット、久しぶりー!」「ヤー、生きてたかい?」。閉まつたと思つた戸はまた開いては閉じてを繰り返して、すぐに全員が顔を揃える。下は78歳から上は92歳までの6人はみな、本を手にかけている。

約束の13時にはまだ1時間ある。手元の本をそつちのけに、賑やかなおしゃべりは止まらない。

* * *

朝倉かすみさんの『よむよむかたる』に描かれるのは、老人たちの開く素敵な読書会です。「坂の途中で本を読む会」と名づけられたサークルの平均年齢は85歳。坂の街・北海道は小樽の小さな喫茶店に集まり、月に一度、課題本を囲んで大いに語りあいます。

作品の魅力はなんといつても、個性の強い(強すぎる?)登場人物たち。発足20年、最古参の「会長」は、道内で人気アナウンサーだった

た住時を偲ばせるいい声で朗々と会を進めます。ふくよかで彫りが深く、赤茶の髪の女性は、イタリヤのお母さんを思わせるから「マンマ」。みごとな白髪をお団子にし、丸襟ワンピースで現れた小柄な女性「シルバニア」。「蝶ネクタイ」に「まちやえさん」「シンちゃん」……。

それぞれに人の話を聞かないものだから予定は決まらないし、連絡も一度では伝わらない。忘れっぽくなったことを悟られたくなくて、「次の会はいつだと思う?」なんてクイズ形式にして聞き出そうとしたりする。

それでも、読書会を「紛れもない生きがい」と言い、約束の1時間前には集つてしまう6人(会長のいわく、「最高の仲間と過ごす最高の時間が毎月第一金曜日に待っている」。これほど明るい希望がありました)に私

たちはすつかり魅了され、編集営業、プロモーシヨンと部署を横断した通称「よむよむチーム」が結成されたのです。

もう一人の担当者である大先輩は、「18年の編集者人生でこんなに泣ける本はじめて」と熱弁をふるい、〈編集者激賞!〉と謳うPOPを作つて朝倉さんを苦笑させていました(「そりゃあ、編集者が激賞してくれないと出せないもんねえ(笑)」)。プロモーシヨンの入社4年&20年超のこのこパワフルコンビは、「小樽からベストセラーを!」と何度も北海道へ足を運び、彼の地で着々とよむよむ応援団の輪を広げていきました。入社5年、はじめて文藝部の部署に異動したばかりだった私

はといえば、ひとつの作品がこんなにも人を動かすさまを目の当たりにし、「そうそう、これだよこれ……!」と、本の持つ力にただ涙腺を緩ませていました(あれ、ぜんぜん働いていない……)。

そもそも朝倉さんが読書会をテーマにした背景には、お母さまの存在がありました。

その存在がありました。

当時80歳を過ぎたお母さまは、朝倉さんが物心ついたころから近所の主婦仲間と編みものやお菓子作りなどをやる「ちいさな集まり」の一員だったといひます。さまざまに集まりを経て、もつとも長く続けているのが読書会。たとえ入院しても外出許可を勝ち得て参加し、「もー最高なんだワ」と休まず通われていた会を、ある日朝倉さんは見送るなり「これはもう、小説に書きたい!」と思つたといひます。

作品の連載が始まるたびに寄せられたエッセイには、こうあります。〈わたしは、この「ちいさな集まり」の一員になったときの母が、もともとの母であるような気がした〉母でも妻でもない、もともとの母 になれる。そんな読書会のルールは明快です。

課題本を順に2ページずつ朗読し、その都度、感想を述べあう。朗読への感想と本の内容への感想、ときどき「本文からインスパイアされた各人の思い出話」。6人はこの思い出話が少しばかり長くなる傾向にありますが、それも愛嬌。流れるのは、仲間の声に耳を傾け(傾けないことも多々)、自由で和やかな(ときに剣脊な)時間。読後

「ちいさな集まり」のきらめきが羨ましくなること請けあいです。



2025 敬老の日読書のすすめ

心ゆたかに生涯読書

「2025 敬老の日読書のすすめ」は、各道府県の読書推進運動協議会から寄せられた「敬老の日(高齢者)にすすめる本」の推薦書目をもとに、公益社団法人読書推進運動協議会事業委員会が24点の本を推薦図書に選定、リーフレットを製作し、全国の公共図書館や有力書店に配布します。

本年度は40の読進協から、76点の書目の推薦をいただきました。もともと多くの推薦があったのは、朝倉かすみの『よむよむかた』で、9つの読進協から推薦がありました。ついで、酒井順子の『老いを読む 老いを書く』が7つの読進協から、ジーン・ダフィー(著)／実川元子(訳)の『サッカー! グラニーズ』が5つの読進協から推薦があり、人気を集めました。今回は、エッセイ集やレシビ集、日常生活に役立つ本への推薦が多く、小説への推薦が少なかつたため、2冊のみの掲載です。今回は推薦が増えることを期待します。

事業委員会の書目選考基準は、
①各出版社1点 ②複数県推薦書目の検討 ③対象読者向きか ④そのほか各委員が特別に推薦したい書目などを勘案して検討。メールでの投票と意見交換を行い、最



最終的に委員会全体で24点を確認、決定いたしました。

この推薦図書を掲載したリーフレットは、13万5000部を製作。各都道府県の読書推進運動協議会や中央図書館を通じて各公共図書館に、取次会社を通じて全国の書店に配布し、活用していただきます。当協議会ホームページに、展示用ポップのデータ(PDF)もあります。

リーフレットは多少の準備を用意しております。必要な方は、早めに当事務局までお問い合わせください。

03-52244-5270
03-52244-5271
e-mail info@dokusyo.or.jp
ホームページ
http://www.dokusyo.or.jp/

「敬老の日読書のすすめ」リーフレット掲載書目一覧

著者名	書名	定価	出版社
美智子	歌集 ゆふすげ	一九八〇円	岩波書店
津野海太郎	生きるための読書	二二〇〇円	新潮社
朝倉かすみ	よむよむかた	一八七〇円	文藝春秋
中脇 初枝	天までのぼれ	二四二〇円	ポプラ社
ジーン・ダフィー 実川元子(訳)	サッカー・グラニーズ	三五二〇円	平凡社
スー ジイ	さんになだけのないしょのはなし	一六五〇円	BL出版
酒井 順子	老いを読む 老いを書く	一〇五六円	講談社
『PHP』編集部(編)	80代から人生を楽しむ人、後悔する人	一四三〇円	PHP研究所
上野千鶴子	アンチ・アンチエイジングの思想	二九七〇円	みすず書房
門賀美央子	老い方がわからない	一八七〇円	双葉社
川島 隆太	脳を鍛える! 人生は65歳からが面白い	九九〇円	扶桑社
保坂 隆	「ひとり老後」の「きあいの知恵袋」 「ムリなく気楽にちよつとよく」	一五四〇円	明日香出版社
佐藤 愛子	百一歳。終着駅のその先へ	一三二〇円	中央公論新社
若竹千佐子	台所で考えた	一五九五円	河出書房新社
北大路公子	キミコのよるよる養生日記	一八七〇円	集英社
春日キスヨ	長寿期リスク「元氣高齢者」の未来	九四六円	光文社
湯浅 景元	図解でわかる日常生活動作事典	二二〇〇円	徳間書店
<small>一部「高齢者大鑑」 子小田野子(和訳)</small> 坂東眞理子	健康寿命をのばす100歳レシビ	一五四〇円	NHK出版
森永 卓郎	祖父母の品格	九二四円	朝日新聞出版
和田 秀樹	森永卓郎流「生き抜く技術」 60代から100歳以上まで	一八七〇円	祥伝社
堀野 智子	10歳、現役の化粧品販売員「トモ」の一生楽しく働く教え	一五四〇円	KADOKAWA
小暮 涼子	SNS時代のメタイアテラシー	一五四〇円	ダイヤモンド社
山脇 岳志	60代 大人旅の愉しみと工夫	一四〇〇円	主婦と生活社
		一三三〇円	筑摩書房



2025・第79回 「読書週間」開催についてのお願い

公益社団法人 読書推進運動協議会は、恒例の秋の行事「読書週間」を、本年も主催いたします。

例年同様のご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、期間中およびその前後を通じ、自由な発想による企画を多数お進めいただき、この運動の実効が上がりま

すよう、お願い申し上げます。今年この標語は『**こころとあたまの、深呼吸。**』です。期間中関係各位によつて全国的に実施される行事は、この標語を中心に展開されることとなります。

近年、電子図書館サービスや学校教育におけるタブレットの活用が進み、読書環境が大きく変化してきました。その一方で、対面での読み聞かせや読書会の魅力、書店や図書館でリアルに本を選ぶ楽しさも再認識されています。図書館での各種行事、「BOOK MEETS NEXT」など出版界・書店によるイベントを通して、「読書週間」が紙・電子を問わず、本を通じて人とふれあい、世界が広がるよろこびを、多くの方に実感

していただく機会となることを願っています。

公益社団法人 読書推進運動協議会は、下記の4項目を「読書週間」のテーマとして掲げています。

(1) 国民すべてに

読書をすすめる運動

「秋・読書週間に、ぜひ、一冊の本を」が活動の原点です。「読書週間」は、読書の楽しさを伝え、すべての世代の人たちに本に親しむきっかけをつくっていただくためにあります。多くの人が書店や図書館で一冊の本を手にとってみる、そんな展示や行事を期待しています。

(2) とくに青少年に

読書をすすめる運動

いつの時代も「子どもが本を読まなくなった」といわれてきました。近年は、社会の急速なデジタル化やSNSの普及などで、ますます子どもたちの「読書」の時間がせぼめられています。しか

し、どんなにメディアが多様化しても、それを動かす主役が人間である以上、活字文化はすべてのメディアの基礎です。とくに幼少時から青少年時においての本とのつきあいが重要という認識のもとに、この運動を進めています。

(3) 読書グループの結成促進

現在、全国の読書グループ(読書会、文庫、実演グループなど)は約1万1700あります(公益社団法人 読書推進運動協議会『2023年度 全国読書グループ調査』より)。グループ読書は読書の楽しみ、大切さを広めることで深い意義を持ちます。公益社団法人 読書推進運動協議会は「読書週間」の期間中に「野間読書推進賞」と「全国優良読書グループ表彰」を実施し、全国の読書グループを応援しています。

(4) 家庭文庫、地域文庫の

充実

読書は身近な場所に本が豊かにあることが必要です。各地域の公

共図書館が充実し、読書グループや家庭文庫、地域文庫が数多く作られること、また、図書館や文庫を支える地域の書店の活躍が、本の文化を支え、ひいては日本文化の発展に寄与することと私たちは信じています。

2005年(平成17年)7月29日に公布された「文字・活字文化振興法」により、10月27日が「文字・活字文化の日」と制定されています。「読書週間」とともに、「文字・活字文化の日」もおおいに広めていただきたいと存じます。

記

名称 2025・第79回

読書週間

主催 公益社団法人

読書推進運動協議会

(主要構成団体) 日本書籍出版協会、日本雑誌協会、教科書協会、日本出版取次協会、日本図書館協会、全国

学校図書館協議会、日本書店商業組合連合会)

後援 文部科学省

期間 10月27日(月)から11月9日

(日)まで

標語 『こころとあたまの、深呼吸。』

《行事内容》

- 「全国優良読書グループ表彰(第58回)」の実施
- 「野間読書推進賞(第55回)」贈呈式開催
- ポスターおよび広報文書配布(公共図書館、全国の小・中・高等学校図書館、書店、関係出版社、報道機関など)

- その他、道府県の読書推進運動協議会、関係各団体の協力を得て、各種行事実施の推進

- 《各種機関へお願いの行事内容》
- 公共図書館、公民館、小・中・高等学校の学校図書館などにおいて「読書研究会」「読書のつどい」「作家・評論家による講演会」「図書雑誌展示会」(著者をかこむ会)などの開催。「読書感想文・感想画コンクール」の実施

- 道府県の読書推進運動協議会による道府県単位の「読書大会」などの開催

- 出版社、新聞社、放送局、文化団体などによる、被災地域、児童養護施設、矯正施設などへ向けた「図書・雑誌の寄贈運動」の実施



読書推進運動協議会
公式 X (旧 Twitter)

■「子どもの読書推進会議」総会開催

絵本ワールド 会場増加を見すえた 予算を計上

7月11日(金)、出版クラブビル(東京都千代田区)において「子ども読書推進会議」の2025年度第1回総会が行われた。推進会議を構成する各団体から26名の委員が出席した。この会議体の事務局は、読書推進運動協議会が務めている。

総会の冒頭、野間省伸 子どもの読書推進会議 代表は議長としてのあいさつで、「2024年、



十文字学園女子大学(埼玉県新座市)を会場とした絵本ワールド(2024年)

日本国内の出生数が70万人を割るといふ深刻な少子化のなか、未来をになう子どもたちが読書に親しむ環境を整備することが、ますます

重要になってくる」と述べた。

議事1として、事務局より2024年度の事業報告があり、「上野の森親子ブックフェスタ」と、「絵本ワールド」事業を中心に報告、承認された。議事2として、「2024年度 収支決算書」について、明細も含めた説明があり、監査役より適正な手続きで監査を行い完了した旨の報告があった。

議事3の「2025年度収支予算書」の説明を行った。「上野の森親子ブックフェスタ 2025」

として、2025年5月4日(土)・5日(日)開催の「上野の森親子ブックフェスタ 2025」では、来場者数、売上金額ともに前年より増加したことや、オペレーションの合理化を徹底していること、などを報告した。

最後に構成各団体より活動報告があり、閉会した。

■全国図書館大会 愛媛県で開催

愛媛県ならではの講師、実践を 詰めこんだ大会に!

「第11回 全国図書館大会 愛媛大会」(主催：公益社団法人 日本図書館協会/愛媛県/愛媛県図書館協会ほか)が、10月30日(木)・31日(金)に開催される。

テーマは「図書館が彩る未来 伊予路から」。愛媛県民文化会館を中心に、松山市内の各施設を会場として、全体会、分科会、懇親交流会が予定されている。記念講演は「読むこと書くこ

と生きるということ」。白川密成

さん(四国八十八ヶ所霊場第57番 札所 栄福寺 住職)、高橋久美子さん(作家、作詞家、田丸雅智さん(ショートショート作家)の3人の愛媛県出身の文筆家を講師に、「いよ本プロジェクト」の岡田有利子さんがコーディネーターを務める。分科会は12テーマ(録音配信含む)。「公共図書館」「災害と図書

館」「出版社・書店・図書館」、電子図書館サービスや生成AIについて考える「図書館とデジタル化」、障害者サービスと多文化サービスがまとまった「インクルーシブな図書館」、愛媛県内の病院図書館や患者図書館、公共図書館の医療・健康情報提供の実践を紹介する「専門図書館・健康情報」などが予定されている。

参加には事前申し込み(9月30日締切)と参加費(資料代など)が必要。宿泊プランも用意されている。



全国図書館大会 愛媛大会 紹介サイト QRコード

■日本児童文学者協会がYouTube 配信を開始

作家同士のインタビューで 創作の裏側などを紹介!

一般社団法人 日本児童文学者協会 子ども読書の委員会は、2025年4月より YouTube チャンネルを開設し、委員会作家による創作の裏話や執筆の秘密などを紹介する動画「作家が作家に

きいてみた! おでんの具はなにが いいですか?」を月1回のペースで配信している。

現在配信されているのは、
・押川理佐さん×ほんまちひろさ

今後は、8月に
・いとうみくさん×しめのゆきさん(聞き手)『つくしちゃんとながれぼし』(福音館書店)
9月に
・ほんまちひろさん×加藤純子さん(聞き手)『同声(混声) 合唱とピアノのための まちの音』(音楽之友社) を配信する予定。

動画は字幕つき。インタビュー内容を書き起こしたものが、「子ども読書の委員会」ブログにも掲載されている。



日本児童文学者協会 子ども読書の委員会 YouTube チャンネル QRコード

「子どもとの絵本のひとときや、その思い出の写真」を、Instagramで募集した、NPOブックスタート「第4回 いっしょにえほん写真コンテスト2025」の受賞作品25点が発表されました！

応募総数は255点。大賞と選者賞の作品をご紹介します。



←大賞 yumiさん
ばあばに抱っこされた赤ちゃんに絵本を読んでいるのは、なんと、ひいばあば！
大賞には、受賞作をもとにした山口みれいさのがイラストと、オリジナル図書カードが贈られます。



↑選者賞(きなこ賞)
さくさく日記さん

NPOブックスタート主催 「第4回 いっしょにえほん 写真コンテスト2025」 発表！



↑選者賞(金柿秀幸賞)
優子さん



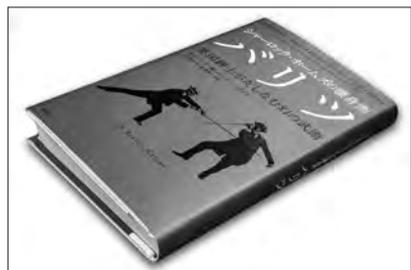
選者賞(かさいまり賞)↑
にこはるさん



←選者賞
(NPOブックスタート賞)
Petit-coさん

- 写真の著作権は、受賞者(撮影者)に帰属します。
 - 下記のサイトに、すべての入賞作品が掲載されています。
- <https://www.bookstart.or.jp/>

《第4回 いっしょにえほん写真コンテスト2025》選者 *五十音順
かさいまりさん 絵本作家
金柿秀幸さん 絵本ナビ代表
きなこさん フォトグラファー・インスタグラマー
NPOブックスタート事務局



120点を超える掲載写真は1899年の発売当時のものをそのまま使用している

数多い応募書籍のなかから、マツダオフィス装幀の『シャーロック』を毎回1点選出している。

日本書籍出版協会・日本印刷産業連合会が主催し、出版物について印刷、製本、装幀、デザインなどの観点から総合的に評価、顕彰する「第58回 造本装幀コンクール」の受賞作品が発表された。審査会は6月3日に行われ、2024年に初版が刊行された書籍が対象、応募があった162者308点のなかから各賞22点が選出された。同コンクールにおいては後援団体賞として「読書推進運動協議会賞」を毎回1点選出している。

「ホームズ最後の謎」、解決!? ファン歓喜の一冊を当会の賞に選出

■「第58回 造本装幀コンクール」

ク・ホームズの護身術バリツ(平凡社)を選出した。

ホームズの『空き家の冒険』に登場する謎の格闘術「バリツ」のモデルとの説もある「パーティーツ」。ビクトリア朝末期に誕生したこの「幻の護身術」を1899年の雑誌記事の翻訳というかたちで紹介する企画性の高い1冊。格闘や杖などの道具を使う戦いかたを連続してみせる写真が全編にクールにレイアウトされ、カバーはゴージャスカつ上品なゴールド。企画と装幀全体を通して、ややスノッパな往時の英国流ユーモアを漂わせている。

経済産業大臣賞、文部科学大臣賞、東京都知事賞など概要については同コンクールのウェブページ <https://www.jbpa.or.jp/zohon/zohon-index.html> に書影ともに掲載されている。

9月30日から10月30日の予定で、第58回 造本装幀コンクールの受賞作品をはじめ全応募作品308点が出版クラブビルクラブライブラリーで公開展示される。

■第30回 日本絵本賞表彰式

絵本の表現の多様さ、
深さの進化を実感する作品を表彰

8月1日(金)、東京都千代田区の日本出版クラブで「第30回 日本絵本賞表彰式」(主催＝公益社団法人 全国学校図書協議会)が開催され、各受賞者が受賞の喜びを語った。

日本絵本賞大賞『ぼくは ふね』(福音館書店)の作者、五味太郎さんは、「表彰式には蝶ネクタイで出席している。今日は7年ぶり。ときどきほめられるのはいいものです」と喜びを述べた。

日本絵本賞の『ひとのなみだ』(童心社)の内田麟太郎さんは「ありがたいと思います」のひと言で nakaban さんに交代。

nakaban さんは、「自分自身、戦争を知らず、間違ったことを描いてはいけないと、これまで戦争に関する絵本は全部断ってきた。でも、内田さんの文章をもらいテキストに圧倒され、ほかの画家には渡したくないと思った」と語った。同じく日本絵本賞『ゆききのこえ』(講談社)のおーなり由子さんは「身体を通して感じる体験ができればと思った。ことばだけでは

むずかしい身体感覚を、はたさんが絵で表現してくれた」、はたこうしろうさんは、はじめて雪が積もった光景を目にしたときの思い出をもとに、「初心者の気持ちで絵を描くと、子どもたちが物語に入れる」と話した。

翻訳絵本賞『ねえ、おぼえてる?』の作者、シドニー・スミスさんは「心をこめたこの本が(日本で)選ばれた幸運をかみしめています。この本は母へのラブレター。愛のメッセージが遠い国に届いたことがうれしい」と、カナダからビデオメッセージを寄せた。



個性豊かな今年の受賞者のみなさんと最終選考委員たち

優良読書グループの歩み (8)

2024年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。(順不同)

サンワクト

代表者 布沢 桂子
富山県中新川郡上市町

〈推薦〉
富山県読書推進運動協議会

読書グループ「サンワクト」は、1998年に結成されました。富山県民共生センター サンフォルテ図書室主催の読書講座終了後、参加した有志で立ちあげたグループです。月に一度、サンフォルテのグループ読書室に集まり活動しています。会員は県内各地から集まり、なかには交通機関を乗り継ぎ参加する会員もいます。

グループ名は、「ワクト」がアラビア語で「時・時間」を表すことから、サンフォルテで過ごす楽しく有意義な時という意味からつけました。名前のとおり、これまでに、たくさん仲間、たくさん本との出会いを通して、思い出深い時間を過ごしてきました。

私たちは、例年4月に年間計画を立て、月ごとのテキスト本を決めます。ほとんどは、会員のおすめ本から選びます。富山県立図書館で年に一度開催される「読みなかまのつどい富山県大会」のテキスト本はかならず選びます。ときには、年間テーマを決めたり、1年を通して同じ作家の本をテキストとしたりしたこともあります。

たとえば、「女流作家より学ぶ」というテーマのもと、明治から昭和前期の女性作家の作品をテキスト本として感想を話しあいました。樋口一葉・田村俊子・住井すゑなどです。現代とは、あまりに違う社会背景、その中でも力強く生きてゆく人々の姿に励まされたこと、時代や環境が違っても今の私たちと同じ様なことで悩み苦しんでいる姿に心打たれたことなどを話しあい、その成果をサンフォルテフェスティバルで掲示物として発表しました。

私たちは1年に一度、気候のよいころに県内外の地に歴史や文学を訪ねて親睦を深めています。近年では、石川県立図書館・高岡市方葉歴史館・勝興寺などを訪ねました。近くに住む会員が案内役を務めたり、資料を準備してくれることもあり、ふだんは利用しないライトレールや城端線に乗ったこともよい思い出となりました。



有意義な時間を本と仲間とともにこれからも重ねて

グループが誕生して20数年、これまでの活動を振り返り、2冊の「あゆみ」にまとめました。ページを開くとさまざまなことが甦り、私たちの宝ものとなつていきます。年を重ねて会員の数も現在は5名となりました。少しでも長く、この仲間たちと一緒に活動をし続け、新しい本に出会いたい、というのが今の願いです。

七色くれよん

代表者 横山 朱實
岐阜県読書推進運動協議会

1991年の秋、地域の公民館で絵本作家のひぐちみちこ先生による「手作り絵本」の講座がありました。講座修了後「私たちが作ってみたい！絵本でつながりたい！」という有志が集まり、「七色くれよん」を立ちあげました。当初は月に一度、各自の手作り絵本を持ちりましたが、やはりむずかしく、しだいに行き詰まりました。継続できる活動をメンバーで話しあい、読み聞かせをすることに決め、地域の子どもを対象に公民館でのおはなし会の活動をスタートしたのです。

そして、1999年、小学校の校長先生からのうれしいお誘いをきっかけに、昼休みに学校図書館で読み聞かせを始め、翌年からは定期的に朝読書の時間に教室などで読み聞かせを行うようになりました。さらに、中学校や幼児園、子どもセンターと活動の場を広げ、ふれあう子ども幼児から中

学生までとはば広くなりました。私たちの願いは、子どもたちに絵本などを読むなかで「本の好きな子になってほしい、いろいろな本と出会うなかで感情を育み豊かな心を育ててほしい、聴く力を養ってほしい、読んでもらうことに心地よさを感じてほしい」ということです。感じた心地よさを子どもたちは生き生きとした表情や身体で表現してくれます。エプロンシアターの動きに応じて、瞬時に演じ手と一体になり物語の世界に入り込んで楽しむ姿。目を輝かせておはなしに聴き入る姿。ときには笑い、ときには涙して聴いている姿。このような姿にふれると充実感で胸がいっぱいになります。さらに、「楽しかったよ、また来てね。」と言う子どもたちの笑顔には、大きなパワーをもらいます。

この30余年の間、メンバーもさまざまな理由で入れ替わりがありました。おたがいの事情を理解して配慮しあい、無理のないようにしてきたのが長く続けられてきたコツかなと思います。それにもまして、快く活動の場をつくっていただいている校長先生や園長先生、たくさんの先生方や子どもたち、本当に多くの方々を支えられながら続けられてきたことをしみ

じみと感じ、感謝しています。そして、これからもこの活動が絶えることなく続き、地域の子どもの豊かな心を育むことを願って、仲間を増やしていきたいと思っています。

やよい会

代表者 中溝 茂樹
佐賀県杵島郡白石町
佐賀県読書推進運動協議会

「また来てね」子どもたちの元気な声に心えてこちらもハイタッチ。今日も、子どもたちから明るいエネルギーをいっぱいもらい、私は冬の陽だまりのような暖かさに包まれる。

読み聞かせボランティアやよい会は、1997年3月に発足した。今年度で27年目になる。最初は、視覚障がい者の方たちに、町の広報の重要事項をカセットテープに吹きこんで渡すボランティアから始まった。テープに余分ができるので、絵本のおはなしをつけ加えていた。そのうち、地元の小学校や保育園への読み聞かせを始め、2018年からは中学校への読み聞かせを始めた。現在会員は、40



各自お気に入りの一冊を手に記念撮影！

私は、10年前、中学時代の恩師に勧められ、やよい会に入会した。定例会では、発声練習、早口ことばや滑舌の練習、絵本の読み聞かせの基礎を学んだ。そして、園児・児童・生徒にとつて、読み聞かせが心の情操にどんなに必要かを、先輩方から熱心に教えていただいた。

先日、スーパーで買いものをしていたら、野球帽をかぶった小学生の男の子が、あれっ知つてるといふ顔をして近づいてきた。男の子は、「こんにちは。いつも読み聞かせ、ありがとう。」と元気な声で話しかけてくれた。私はうれしくなった。病院ではおばあちゃんにつき添われた小学生から、コンビニでは親子連れの保育園児から、高校生からもあいさつを受ける。その都度、私たちの活動が地元に着実に定着してきていることを実感する。

私たちはやよい会は、27年間たゆまず続けてこられた先輩方の熱意を引き継ぎ、これからも絵本を読む楽しさを子どもたちに伝えていきたい。
(文責：やよい会事務局 副代表 副島 則子)



2025 第79回 読書週間 ポスターイラスト決定!

7月18日(金)、公益社団法人読書推進運動協議会の「読書週間ポスターイラスト選定事業委員会」(出席17名)が開催され、「2025第79回 読書週間」のポスター用イラストが決定しました。

本年度の応募総数は338点。事務局による第一次選考で19点を

選び、第二次選考ではデザイナー2名が12点を厳選。最終選考を事業委員会による選考委員会が行い、大賞、優秀賞、入選の受賞者を決定しました。

■大賞(賞金10万円) 1名
天野 美月さん(神奈川県相模原市)



大賞
(ポスターイラストに採用)
天野 美月さん

本年度のポスターイラストは、
標語「こころとあたまの、深呼吸。」

■優秀賞(賞金1万円) 3名
時東 沢果さん(埼玉県川越市)
坂谷 愛依さん(愛知県豊川市)
大西 晴奈さん(奈良県橿原市)

■入選(記念品) 8名
田中ひかるさん(東京都文京区)
KUROさん(東京都豊島区)
別府 葵さん(東京都武蔵野市)
小林 理恵さん(東京都町田市)
nekoryさん(石川県能美市)
奥村このみさん(福井県敦賀市)
近石 彩佳さん(奈良県橿原市)
たしまさとみさん(福岡県福岡市)

をテーマに募集。森や木陰、青空など、深呼吸したら気持ちよい場所を背景にした作品が目立ちました。大きく息を吸い込んで潜るイメージからか、深海をモチーフにした作品も見受けられました。

大賞を受賞したのは、天野美月さん。大きな本の形をした雲の上で、こころもあたまもリラックスしている表情が、笑顔を誘います。

優秀賞は、左のとおりです。受賞作はすべて、読書推進運動協議会ホームページに掲載します。



時東 沢果さん



坂谷 愛依さん



大西 晴奈さん

事務局報告(7月)

- ☆1日||「全国優良読書グループ表彰」推薦を各道府県連協に依頼
- ・1日||「子ども読書推進会議 2024年度 事業報告書・決算報告書」入稿
- ☆2日||産経新聞より取材
- ☆7日||会員社へ総会報告書および会費請求書を送付
- ☆7日||機関紙「読書推進運動」692号入稿
- ☆8日||機関紙「読書推進運動」692号責了
- ☆8日||日本雑協協会へ「読書週間」広報広生掲載協力を依頼
- ・11日||子ども読書推進会議 第1回総会開催
- ☆14日||「読書週間ポスターイラスト」事務局選考会開催
- ☆15日||機関紙「読書推進運動」692号出来
- ☆15日||「敬老の日読書のすすめ」リーフレット、「読書週間」趣旨書入稿
- ☆15日||富士フィルムBIと打ちあわせ
- ☆16日||「読書週間ポスターイラスト」デザイナー選考会開催
- ☆18日||「読書週間ポスターイラスト」選定事業委員会開催
- ☆22日||第2回常務理事会開催
- ・28日||ちひろ美術館・東京 展示内覧会出席
- ☆31日||「第55回野間読書推進賞」推薦締め切り(消印有効)
- ☆31日||「敬老の日読書のすすめ」リーフレットおよび「読書週間」趣旨書出来

編集部&事務局の ひとこと

●この7月に宮城県で開催された女子プロゴルフツアーで、コースでクマが目撃されたことにより、プロアマが初日の日程が中止になるというちよつと驚いてしまうニュースがあった。北海道や東北などで、クマに遭遇した人が被害にあう痛ましい事件も続いている。

●クマが住宅地近くまで出没するようになったことについては、里山の荒廃やドングリの不作などいろいろと語られているが、クマとの遭遇は、むろん今に始まったことではない。吉村昭さんの『鵜嵐』は、日本史上最大の獣害ともいわれる「三毛別熊事件」を題材にした小説だ。

●1915年に起きた事件では、北海道苫前郡の開拓集落が巨大なヒグマに襲われ、7名の死者を出した。六線沢と呼ばれていた大正期の川沿いの小さな開拓集落の生活と、ヒグマの底知れぬ恐怖、そして射殺にいたるまでの困難さを、この小説は見事に描ききっていて、少しばかり不謹慎かもしれないが、映画でいえば、ヒッチコックやブライアン・デ・パルマの作品のような超一級のサスペンスとしても読むことができると思う。

●吉村さんは、安政の大獄、彰義隊、日露戦争、大震災や津波、戦艦武蔵などなど歴史上の大きな動きや事件をテーマにした名作も多いけれど、このヒグマや、脱獄、船の難破と漂流、はたまた胃カメラなど、やや意外なところから題材をもつてきたすばらしい作品群がある。2006年に亡くなったが、いまでも敬愛してやまない作家のひとりである。(佐々木)